

秋田県建設部 河川砂防課
国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所

第1回 秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会

議事要旨

1. 検討会の概要

日時:平成27年11月26日(木)13:00~16:00

場所:仙北市田沢湖総合開発センター

出席者:(学識経験者)井良沢委員、大場委員、林委員、檜垣委員、三浦委員
(専門機関、行政機関)ほか12委員

2. 検討概要

(1) 設立趣意書

本委員会の設立趣意書を事務局から説明し、了承を得た。

(2) 委員会規約、公開方法、傍聴規定

委員会規約、公開方法、傍聴規定について事務局から説明し、了承を得た。

(3) 委員長の選出

委員長については、委員の互選により、弘前大学檜垣教授が選出された。

(4) 議事内容

- 1) 火山防災に関わる経緯について
- 2) 秋田焼山現況の把握
- 3) 噴火シナリオ作成に向けた論点の整理
- 4) 今後のスケジュールについて

3. 議事概要

委員からの主な意見等は次のとおり。

1) 火山防災に関わる経緯について

- ・ 特に意見無し

2) 秋田焼山現況の把握

- ・ 降灰後の土石流による影響を把握するにあたって、流域の雨量や積雪量の的確な把握が重要となることから、現在の観測所の位置を配置図に明示する必要がある。
- ・ 積雪深は標高と密接な関係があるため、標高から推測する手法も検討すること。また、可能なかぎり、隣接する観測所のデータを活用すること。

- ・ 玉川の河床変動の経緯に関連して、平成5年以降の大規模な出水を次回委員会までに整理をすること。また、下流の貯水池等の土砂堆積データがあれば、土砂の流出傾向の把握が可能になるので、検討してほしい。
- ・ 土砂災害防止の観点から、河川勾配10度以上の区域に1センチ以上の降灰があると危険な状態になるため、あらかじめ10度以上の区域の分布を把握する必要がある。

3) 噴火シナリオ作成に向けた論点の整理

① 想定火口について

- ・ 計画対象とする想定火口を、1万年以内に形成された火口とすることは妥当だと思うが、想定火口の形状が少し広めになっており、山頂周辺の溪流まで範囲に含まれるため、土砂災害の観点から言うと周辺の河川について十分に影響を考慮する必要がある。
- ・ 秋田焼山の場合、ほとんど山頂周辺で噴火活動し、側噴火が幾つかあったが、側噴火は1万年以内に発生していない。1万年以内のマグマの範囲はほぼ山頂火口面である。
- ・ 玉川噴気・地熱地帯は、温泉活動による何らかの水蒸気爆発等によって形成された地形であるため、想定火口に含めない提案に賛成である。ただし、非常に熱水活動が激しく、地すべりや水蒸気爆発の可能性があり、必ずしも安全というわけではないことを認識する必要がある。今回の計画の想定火口は山頂付近にとどめるということで賛成である。
- ・ 想定火口の形状として緩衝帯型を選定しているが、時間的に1万年以内の火口、距離にして500mという、この数値に関しては他の火山の場合と共通しているものなのか確認すること。
- ・ 想定火口を該当する火口から500mを包括する範囲としているが、想定火口の範囲を見ると、適当との印象がある。

② 火口噴出型泥流について

- ・ 1997年の噴火は、小規模であるが、火口から泥流が噴出してきたのは確かであり、今回の計画で火口噴出型泥流を検討するのは賛成である。
- ・ 火口噴出型泥流の影響については、国道を含めた下流まで十分に考慮すべきである。小規模噴火が最近起きている所から直接火口噴出型泥流が湯ノ沢に下ることも可能性として考えるべきである。
- ・ 泥流堆積物のマトリックスとか、そういう証拠が見いだせるようだとかなり説得力がある。できる範囲で次回以降の検討会で示していただけたらと思う。

③ 噴火に関して(タイプ、規模、噴出量)

- ・ 規模の想定に関しては実績に基づいてやることで、大丈夫だと思う。今回、噴出量を想定しているが、噴出量と火口の大きさの関係は文献が出ているため、範囲内でどれぐらいの穴があったかという想定ができる。火口壁を破壊するような現象も十分起き得るのではないかと考えている。

- ・ 噴火規模として、中規模を想定する計画であるが、これは非常にいい。小規模と大規模だけでは、具体的に避難計画等を作るときに考える材料が少なすぎるため、中規模のシナリオを考えていただくのは、非常に有効である。
- ・ 今回提案の噴出量は、過去の実績という意味での噴出量であるが、今後、起こるものは想定であるため、50万あるいは100万単位の数値にした方がわかりやすい。
- ・ 噴出量は、空隙を含めた見かけ上の量か、または実数量なのか、明確にする必要がある。

④ 地すべりについて

- ・ 澄川地すべりの現象は地すべり地形で融雪を誘因に土砂移動が発生し、貯まっていた水蒸気が爆発的に出たと考えられる。火山噴火に伴う土砂災害の現象とは違って来るため、岩屑なだれについては、検討は要らないと考えられる。
- ・ 澄川温泉と同様の現象が玉川温泉でもあり得る。防災全体の観点から、玉川温泉での水蒸気爆発は念頭に置くべきであるが、火山現象について緊急減災を検討するという本委員会の趣旨から外れるため、この計画からは除外することで問題ない。

⑤ その他

- ・ 1997年の噴火では噴石もしっかり飛んでいる。火口から250mまで噴石があり、非常に小さな水蒸気爆発が起こってもそのぐらいのリスクはある。御嶽山のような予兆なしの噴石災害が起こるというリスクは秋田焼山もある。
- ・ 対策工事の過程における安全措置については、この計画全体を通じて考えていただきたい。
- ・ 噴火シナリオが火山防災マップ作成時の想定から入れ替わってくるかと思うが、変更部分はきちんと市民に伝えていきたい。

4) 今後のスケジュールについて

- ・ 本年度の開催予定および次年度以降の予定について事務局から説明した。